Infinite Stratos 自由と運命の翼

ZEROの使い

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

俺はヒョンな事からＩＳを動かしてしまったのだ。

ＩＳは女にしか動かせない物だが、世界に二人ＩＳを動かせる男がいた。

その二人の運命やいかに。

目次

第1話 ―― 1
第2話 ―― 6
機体説明 ―― 13

第1話

「はじめまして、朱鳥真（あすかしん）と言います。よろしくお願いします」
俺は親の仕事の都合でアメリカに住んでいたが、ここ日本につい先週戻って来た。
そして今は、転校した小学校の2年生のクラスで自己紹介をしている。
ちなみに俺の家は世界で三本の指に入ると言われているアスカ財閥である。
家族構成は父、母、兄、俺である。
父親の名前は、朱鳥重蔵（あすかじゅうぞう）でアスカ財閥会長
母親の名前は、朱鳥暮羽（あすかくれは）で会長婦人
兄貴の名前は、朱鳥希羅（あすかきら）で開発部部長
アスカ財閥は長男が跡取りと言う掟があるので、兄貴は次期会長である。
父親は名前に似つかずかなり温厚な人で、社員からは慕われている。
母親は優しいが、怒ると怖い。
そしてこの町に引っ越して来たのは兄貴とこの俺だけである。
何故かと言うと、兄貴が日本のアスカの会社で開発責任者になったからなのである。
ちなみに本社はアメリカと、日本にある。アメリカの本社に父親と母親がいる。

戻って来るのは兄貴だけで良いのだが、母親が
「真は日本に行ったことがなかったよね、ちょうど良い時に希羅が日本に戻るから２０歳になったらこっちに戻って来なさい」
と、言う事だ。
兄貴は反対したが、父さん（俺はこう呼んでいる）も母さんの方についたので俺はここにいる。
父さん曰、「可愛い子には、旅をさせろ」らしい。
俺は小学校２年生をするのは二回目だ。俺は向こうの学校で飛び級して１年生から２年生に飛び級、さらに２年生になって５ヶ月後に５年生に飛び級した。
そう、俺はかなり頭が良いのだ。何故かと言うと、俺の兄貴はハーバード大学でロボット工学の博士号を取っていてＩＱ１８０は軽くあるらしい。そして、兄貴に勉強を教えてもらったおれは《完全記憶》と言う能力を持っている。一度見たもの、教えてもらった物は忘れないという事らしい。その能力のお蔭もあって、俺の頭は中学生程度の問題なら解くことができる。
とっ、話がだいぶ長くなったな。まあ、俺の家族はこんな感じの家族だ。
「皆さん、仲良くしてあげてくださいね。」
と先生が言うと

、

「「はーい」」

とクラスのみんなが元気よく返事をした。

俺は先生に促されて空いている席に座った。そしたら両横にいる男子生徒の一人が小声で、

「初めまして。俺、織斑一夏（おりむら　いちか）て言うんだ。一夏って呼んでくれ」

と言われ、もう片方にいる男子生徒が

「俺、五反田弾（ごたんだだん）て言うんだ、弾と呼んでくれ」

と言われたので

「初めまして、弾、一夏。改めてよろしく」

と言うと、両横の弾と、一夏が嬉しそうに笑った。

俺が転校してきてから1週間の間に、一夏の幼馴染の篠ノ之箒と言う女の子とも仲良くなった。

それから2年後世界が一転することが起きた。

ＩＳ《インフィニットストラトス》が発表されたのだ。しかもそれを作ったのが篠ノ之束、つまり箒の姉が作ったのだ。俺が一番驚いたのが希羅、俺の兄がＩＳ開発に加担していたのだ。

そして、ＩＳが世界最強の兵器と示された事件が起きた。

《白騎士事件》

世界各国のミサイルがハッキングされ日本に向かって発射された。自衛隊は迎撃に向かうが数が多すぎてミサイル全弾撃ち落すことができない。日本は恐怖のどん底に落ちてしまった。しかしそこに、所属不明のＩＳがミサイルのほとんだ撃ち落とされた。日本には一発たりとも墜ちなかった。

ＩＳが世界最強の兵器なのだがＩＳには、重大な欠点があった。それはＩＳが女性にしか動かせないという事だ。

ＩＳが切っ掛けで、男女の社会的パワー一変し女尊男卑の世界になった。そして世界の国々、企業がＩＳ開発に乗り出した。それはアスカ財閥も例外ではなく兄貴と俺はアメリカ本社に戻ることとなった。

箒も政府の重要参考人プログラムによってこの町を離れることになった。

俺はアメリカに戻る日に一夏、弾が見送りに来てくれた。

「じゃあな、真また会おうぜ」

「ああ、また会おうぜい。一夏」

一夏は笑っていたが弾と言うと

「うっ、うう。まだな真」

と、滅茶苦茶泣いていた。
俺は泣いている弾にハンカチを貸してやった。
「また会えるから、な」
「分がった。約束だぞ、真」
なんとか弾をなだめて、俺は兄貴と共にアメリカ本社に帰った。

それから6年後世界が震撼する事が起きた。
世界で初、男でＩＳを動かす人が二人出てきた。　その名は
織斑一夏と朱鳥真

第２話

織斑一夏と朱鳥真が世界で初めてＩＳを動かせる事が発表される４週間前、アメリカのアスカ本社

［ＩＳ開発部］

そこにはＩＳ開発部部長の朱鳥希羅とＩＳ開発部副部長の朱鳥真が座っていた。そして目の前に国際指名手配の人がいた。　篠ノ之束という人が。

「やーやー、久しぶりだねー。キー君、真君。」

「おひさしぶりです、束さん」

（なんでこの人、ここに居るんだ。どう考えてもヤバイだろ。）

と、言うか何故兄貴はこうも自然に会話出来るのだろうか。

て言うか、どうやって入ってきたのだろう。

ここのセキュリティ、アメリカ国防総省並みの硬さなのだが。

「ところで、何のようですか？束さん」

「いやー、夢中でＩＳ作っていたら、大変な物が出来ちゃってねー。処理使用にも勿体無いので君にあげようかと思ってね。」

「一体どう言った機体なんです？」
「ひどーい。華麗に束さんのボケをスルーしていくよー。キー君」
何か急に泣き出したよこの人。
兄貴の方を見ると兄貴は溜息をついて。
「追い出しますよ？」
と兄貴は笑いながら言った。
しかし、目はまったく持って笑っていなかった。
それに気づいたのか、束さんは急いでＩＳを展開して置いた。
その機体はかなり変わった機体が置かれていた。
全身装甲《フル・スキン》であるのだ。
通常、ＩＳの装甲は全身装甲ではなく部分的に装甲がついているのだが、目の前の機体は全身装甲である。
ＩＳを見た兄貴は目を輝かせていた。
「なかなか面白いですね、束さん。全身装甲は思いつかなかったな」
「でしょ、でしょ。キー君。でもそれ起動しないんだよ。ＩＳ適正が高い人でも起動しなかった機体なんだよね。」
え、起動しないＩＳってあるの？起動しなかったらタダの置物じゃんと思いながら束

ねさんに俺はこう聞いた。
「束さんでは、起動できないんですか？」
「残念ながら、束さんも起動できないんだよ」
開発者でも起動しないＩＳて誰も動かせないんじゃないのか？
などと思いつつ、興味本位でＩＳに触った瞬間。
ＩＳが発光して、頭に大量の情報が流れ込んできた。
「な、馬鹿な。ＩＳは女にしか動かせないはずなのに。何故、真に反応しているんだ？」
兄貴はかなりテンパっていた、が束さんはなぜか少し笑っていた。
そして俺の頭の中に言葉が響いてきた。
―お前を気に入った―
なんだと？
―お前は力を欲しがっている―
ああ確かに欲しいさ
―どんな力が欲しい―
俺の友達や仲間を脅かす奴らを殲滅する力が欲しい
―いいだろう―
頼むぞ、もう二度と人を失いたくない

—結ぶか、この契約—
いいだろう。結ぶぞその契約
—start system access—
—fitting start—
—operation system start—

—General—
—Unilateral—
—Neuro—link—
—Dispersive—
—Autonomic—
—Maneuver—
—GUNDAM—
—super dragoon system access start—
—推進器稼働確認—
—ハイパーセンサー最適化—
—destiny freedom gundam 起動—

―ｓｅｅｄを持つ者よ、よろしく頼む―
ああ、よろしく頼む。デスティニーフリーダム
俺の視界が白色からクリアになって行く。
目の前には唖然としている兄貴といつの間にかコンソールを叩いて、デスティニーフリーダムのデータを見ている束さんがいた。
「すごいねー。真君、世界で２番目にＩＳが動かせる男になるなんて。」
ふーんなるほど、世界で２番目にＩＳを動か、る？
待てよ、２番目？
「２番目ぇ！」
俺と兄貴がハモった。
「そう、二番目だよー。一番目は３日前に見つかったんだよ。」
「なるほど、３日前だとまだ関係者にしか伝わってないはずだ」
「そうゆうことー」
なるほど、でも
「一番目は誰なんです？」
「真くんの知り合いだよー」
俺の知り合い？　はて

分からない。
「わかりません」
「正解は、一君でーす！」
ほうほう、一君とな。
えっ、一君てまさか！
「一夏なのか！」
「そうだよー」
「あいつ、ＩＳと殆ど無関係なのに何処で動かしたんだ？」
「何でも、高校の入試会場に迷ってＩＳ学園の入試会場でＩＳを動かしたんだってー」
あいつ、何やってんだ。
「それでね、一君ねＩＳ学園に入学させられたんだよー」
あいつ、不幸すぎだろ。
右手になんちゃらブレイカーでもあるんだろうか、あいつ。
「という事で、真君も入学しようかー。ＩＳ学園に」
「はあ、どうせ抵抗しても無理やり入れさせられるからいいですよもう。」
「ヤッターー！キー君もいいよねそれで」
「はい、ＩＳ学園のほうが安全ですしねここよりは」

という事で、俺はＩＳ学園に通う事になったのだ。

機体説明

朱鳥　真（アスカ・シン）
体重　５４ｋｇ
身長　１７６ｃｍ
顔はガンダムｓｅｅｄ　ｄｅｓｔｉｎｙのシン・アスカと同じでいいです。

真の専用機
正式名所
ｚｇｍｆ－ｘ６２ａｓ　デスティニーフリーダム
武装
頭部バルカン砲×２
ソリドゥス・フルゴールビームシールド×１
フラッシュエッジⅡビームブーメラン×２
超射程ビーム砲×１
アロンダイトビームソード×１

ビームライフル×1
クスフィアスⅢレール砲×2
カリドゥス複相ビーム砲×1
スーパードラグーン突撃砲×8
特殊装備
ミーティア
ワンオフアビリティー
ミラージュコロイド